

「薬とお酒、一緒に飲んで大丈夫？」

薬剤部 富沢裕之

お酒と薬をいっしょに飲むと、薬の種類によっては体への影響が強くなることがあります。薬もアルコールと同じく肝臓で分解されるため、肝臓には二重の負担がかかります。結果として長時間、体内に薬の効果が残ることになり、場合によっては生命にかかわる事態になることもあります。

★お酒と抗不安薬・睡眠薬

アルコールには脳の緊張を抑える作用があります。不安や緊張を抑える抗不安薬や睡眠薬にも同じような働きがあります。

この為、お酒と一緒に飲むといつもと同じ量の薬でも作用が強くなり、ふらついたり、意識がもうろうとなることがあります。

★お酒と糖尿病薬

アルコールを多量に飲むと血糖降下作用が出てきます。インスリン注射や糖尿病の薬を飲んでいる人がアルコールを飲んだ場合に低血糖の危険性が高まります。

★お酒と高血圧の薬

アルコールを多く飲むと頭がガンガンしますが、この時血管は広がっており血圧が下がっています。この状態で高血圧の薬を飲むと血圧が下がりすぎて、めまいやふらつき、吐き気が起こることがあります。

★お酒と抗ヒスタミン薬

かゆみ、鼻水を止める効果のある抗ヒスタミン薬には、眠くなるものが多いです。お酒の効果と合わさって、「異様に眠く」なることがあります。

★お酒とせき止め薬

せきの反射神経を抑制する薬は眠くなることがあるため、抗ヒスタミン薬と同様に、「異様に眠く」なることがあります。

★お酒と胃薬

お酒は胃酸の分泌が促し、胃潰瘍の原因になります。またお酒の血管を広げる作用が原因で、出血することもあります。

ここに上げた以外にもお酒とお薬を一緒に飲むと薬害を起こす可能性がありますので注意が必要です。お薬を飲んでいる方は飲酒を控える事をお勧めします。



千葉副院長が厚生労働大臣表彰を受けました！

12月27日、当院の千葉光穂副院長が厚生労働省より厚生労働大臣表彰を受けられました。

これは地方労災医員並びに労災保険診療指導委員会委員として平成7年4月から現在に至る16年の永きにわたり、医学的見地から労災認定業務等に貢献していることによりです。



クリスマスコンサートが開催されました！

12月14日(水)に成章小学校、成章中学校によるクリスマスコンサートが開催されました。

当日は14時30分より、病院ホールにて吹奏楽の演奏や合唱をおよそ160人の方々が楽しみました。入院患者の方々も多数聴きにきていただき、大変満足された様子でした。30分ほどのコンサートでしたが楽しい時間をすごしました。

